



発行所  
横浜市神奈川区沢渡4の2  
神奈川県保育会  
発行人  
都 築 融 光  
題字  
故内山岩太郎筆

# 保育をめぐる状況について

神奈川県次世代育成担当部長

齋藤 百合子



神奈川県保育会の皆様には、

日ごろから本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

近年、急速な少子化が進行する中で、子育てにかかる負担感の増大や、子育て支援サービスへのニーズの増加、さらには児童虐待や子どもが犠牲となる犯罪の発生など子どもを取り巻く問題の深刻化等、様々な要因によって子どもや子育て家庭をめぐる環境は厳しいものとなっております。

このような中、国は本年二月に新待機児童ゼロ作戦を打

ち出し、保育サービスの量的な拡充やサービスの質の保障などを基本方針とし、平成二十年から二十二年度の三年間を集中重点期間として、保育施策の充実に取り組むこととしていきます。

さらに、次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画（後期計画）の策定においては、「待機児童」という既に顕在化した需要への対応だけでなく、潜在需要も踏まえた中長期的なサービス必要量に基づく計画的整備を行うための参酌標準を設定するとしております。今後、市町村を通じてニーズ調査を実施する予定となっておりますが、保育サービスは質とともに量的拡充に取り組み必要に迫られていると言えます。厚生労働省

のまとめによれば、全国の待機児童の数は、平成二十年四月一日現在で、前年同期よりも一六二四人多い一九五〇人となり、五年ぶりに増加に転じております。神奈川県全域では、三二〇人増加して二二二二人と、昨年に引き続き二年連続での増加となっております。

また、国は七月に打ち出した「社会保障の機能強化のための緊急対策」五つの安心プラン」の中で、未来を担う「子どもたち」を守り育てる社会を実現するために、保育サービス等の子どもと家族を支える社会的基盤を整備するとともに、子育て中の多様な働き方などを実現するための「仕事と生活の調和」の実現を推進することとしています。

このように社会全体で子育て家庭を支援し、安心して子どもを生み育てる環境を整備することが求められており、県でも、「次世代育成」を県政の重要な課題の一つとして位置付け、待機児童の解消に向けた取組や多様な保育サービスの充実などを進めているところです。加えて昨年十月には、次世代育成のための県民、企業等団体の役割、家庭の大切さや県民の家庭生活とバランスのとれた働き方の重要性などを位置付けた「神奈川県子ども・子育て支援推進条例」を施行いたしました。この条例に基づいて、あらゆる世代の県民や企業、団体等の皆様とともに、「生まれてきてよかった」、「生み育ててよかった」と実感できる神奈川の実現に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

神奈川県保育会の皆様方におかれましても、今後とも神奈川の未来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

# 第42回 神奈川県保育事業大会

## テーマ「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」



第四十二回神奈川県保育事業大会が「すべての人が、子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」をテーマに平成二十年四月二十六日(土)、神奈川県社会福祉会館に於きまして、六百五十余名の参加者が集い、盛大に開催されました。

式典では、宮田副会長の開会のあいさつの後「花のおさなご」の斉唱、「児童憲章」の朗読、主催者を代表して、都築会長より永年勤続の方へ長年の労のねぎらいと「後進の保育士の育成に期待します」



とのあいさつがありました。また今年度、諸課題がある中「二十一年の保育指針の改訂にあたって、この一年を園長、主任をはじめとして保育士全員で研修・検討を重ね、保育指針の共通理解を深める一年としていただきたい」とのあいさつもありました。

引き続き、長年にわたり園児のために献身的な努力をされた二二六名の永年勤続者の方々に表彰状と記念品が贈呈されました。

続いて、神奈川県保育事業に多大な貢献をされた方々、

(叙勲一名、厚生労働大臣表彰四名、神奈川県保育賞三名)に記念品が贈呈されました。式典は十七名の来賓の方のご臨席をいただき、来賓を代表して、神奈川県次世代育成担当部長齋藤百合子氏、神奈川県議会議員長松田良昭氏、神奈川県村会会長島村俊介氏、神奈川県保育士養成施設協会会長長平野建次氏の各氏より、心温まるご祝辞をいただきました。その後、祝電の披露のあと閉会のあいさつで式典を終了しました。

### 平成二十年度 神奈川県保育協会

式典終了後、保育会総会が開催されました。会長のあいさつ、議長選任の後、議事に入りしました。第一号議案として平成十九年度事業報告及び収支決算報告並びに会計監査報告、第二号議案として平成二十年度事業計画及び予算(案)について説明の後、質疑に入りしました。審議の結果、

### 研究発表会に参加して

#### 第一会場

各議案とも承認されました。午後からは、三会場に分かれて研究発表がおこなわれました。

第一会場では三つの研究の発表がありました。

①大和市立保育園から「多様な機関との連携と協働し気になる子どもの保育の充実」と題して発表がありました。パワーポイントを駆使し、保育園や地域で気になる子どもへの支援について、大和市の特別支援保育や多機関との連携等、丁寧にとめられています。

②民間保育所経営問題専門委員会制度分科会より「保育制度としての保育所の分類と法人運営を支える制度の現状」と題して、保育制度を支える詳細な説明がなされました。



#### 第二会場

第二会場では、三つの研究の発表がありました。

た。

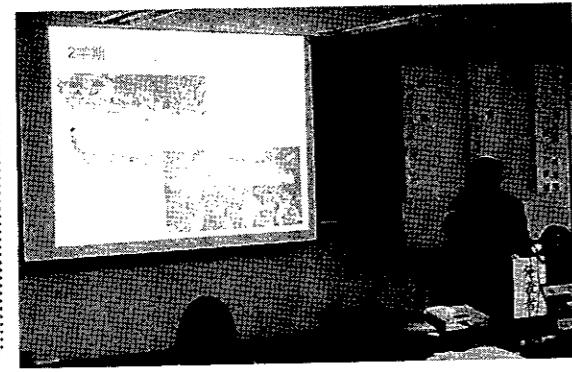
③藤沢市保育士会研究会では、「乳幼児期の丈夫な身体づくり運動機能の発達を促す」と題して、十八年度より二年間にわたる研究内容の発表がありました。各年齢の発達や現状を捉えて、身近にある素材を利用し、発達を促す遊びをパワーポイントを駆使しての説明や実演を交えての熱心な発表となりました。

①「公立保育所の使命と地域社会での役割」今後の公立保育所の役割と実践を考える」と題して、秦野市立幼稚園・保育園一体化の現状と課題」と題して発表がありました。幼稚園、保育園の一体化の経緯と取り組みについて詳細な説明がなされました。また幼稚園、保育園の機能、専門性を生かした前向きな取り組みが園児、保護者、職員にとって良い成果につながったことが報告されました。

②秦野市保育士会保育内容研究会から「食育く食べたい気持ち育てよう」と題して発表がありました。

オリジナルカルタを作成し、子どもが楽しく遊びながら食への心が育つ研究・工夫をされています。中でも身近な郷土の産物や風景を表現したオリジナルカルタは、郷土を想う温かい心を感じる食育カルタでした。

③愛甲町町立保育園から「みんなで食べるとおいしいね」と題して発表がありました。三年にわたり「食育」に



#### 第三会場

第三会場では、三つの研究の発表がありました。

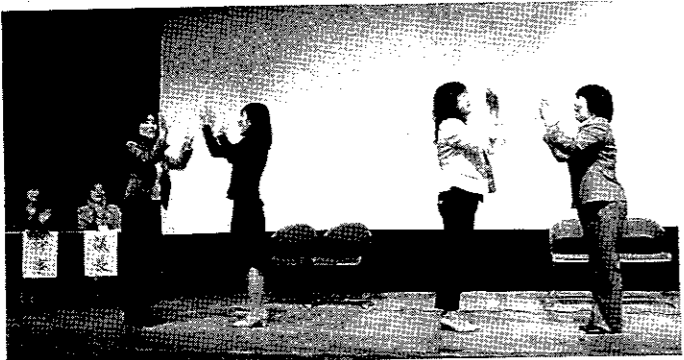
①神奈川県保育士会保育内容研究会から「子どもいきい

ついでの研究をされてきました。「食」が満たされることで心が和み、生きる力を育てることを課題として〇才児から五才児の生活の中での取り組みがなされていました。また、全園で同じテーマの研究がなされたことで、より食育に対する気持ちが一つになったと報告がありました。

きふれあいあそび」と題して発表がありました。啓発・乳児・幼児の三グループに分かれて研究がおこなわれ、ふれあいあそびのポスターの紹介や伝承あそび・運動あそびの実技の発表もありました。最後に手あわせあそびを会場全員で行い大いに盛り上がりしました。

②綾瀬市保育士会から「手作り絵本」(台本から製本まで)と題して発表がありました。一つ一つテーマを持った五冊の手作り絵本の発表は、ストーリーの展開の仕方や絵の描き方の工夫など細かい所まで丁寧に作られている事がよくわかるものでした。どの作品もほのぼのとしたものでとても楽しい発表でした。

③平塚中郡保育士会保育内容研究会から「絵本の与え方」子どもが絵本を好きになるには」と題して発表がありました。導入の仕方・月齢にあった絵本・環境設定などの研究発表があり、子どもに人気がある絵本の紹介もありました。



# 第49回 関東ブロック 保育研究大会

## —子どもの健やかな成長と発達を保障するために—

「開港百四十九周年目に第 四十九回、関東ブロック保育 研究大会が開催され」と、 主催者でもある首長からのあ いさつがありました。このイ ンパクトある一言で今年度の 当番の都県市がご理解いただ けることと思えます。今年度 は、同じ神奈川県でも政令指 定都市の横浜市の当番。「梅雨」 真っ只中の平成二十年七月一 二日の二日間の日程で行わ れましたが、参加された皆様 の日ごろの行いが良かったお 陰で雨に降られることもなく、 二日目は暑い程の日よりの中 で盛大に開催されました。

参加人数は、参加者名簿に よると大会スタッフを含め千 七百名を超える方々。その大 勢の人びとが会場の、みなど みらい地区にあるバシフィコ 横浜の国立大ホールに集まり ました。一日目のオープニン グは、横浜市消防音楽隊とド リルチーム「ポートエンジェ ルズ一九」の素晴らしい演 奏と演技で、会場の人びとを 魅了してくれました。

開会式では、佐野横浜市中

会福祉協議会保育福祉部副 部長の歓迎の言葉に続き、 声楽家の鶴岡文子氏の声楽を 交えた「花のおさな」斉唱。 その後、保育関係物故者への 黙祷、伊藤大会運営委員会副 委員長による児童憲章の朗読。 続いて、主催者を代表して、 大会会長でもあり冒頭のような あいさつをされた中田横浜 市長、齋藤横浜社会福祉協 議会会長、松川関東ブロック 保育協議会会長のあいさつの 後、来賓を代表して吉原横浜 市会議長、小川全国保育協議 会長のあいさつがありました。 最後に、佐藤横浜社会福祉 協議会保育福祉部副部長 による「大会決議宣言」読み 上げられ式典が終了いたしま した。

基調講演では、全国保育士 会会長の御園愛子先生による 「保育所保育指針を考える」

とのテーマで講演があり、保 育指針の改定についてのポイ ント等を解りやすく丁寧に説 明していただきました。

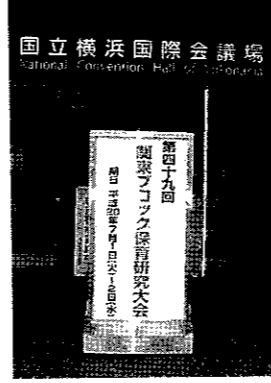
その後の記念講演は、昭和 女子大学学長の坂東眞理子先 生に「子どもを育てる・親を 育てる」とのテーマで講演を いただきました。坂東先生は、 あの有名な「女性の品格」の 著者でありますが、女性の労 働環境の変化や保育サービス 全般についてご自身の経験を 含めてお話しをされ、人を育 てる大切さを改めて教えてい ただきました。

記念講演終了後、次回の当 番都県市の吉田埼玉県保育協 議会会長のあいさつと会員の 皆様のパフォーマンスで一日 目を終了いたしました。

二日目は、場所を会議セン ターとアネックスホールに替 え、特別分科会を含め九分科 会に分かれ研究発表が行われ ました。私たち神奈川県の大 表として、第六分科会に大和 市立保育園の四名による「多 様な機関との連携と協働」。そ して、第八分科会には、秦野

市立みどり子ども園の二名に よる「公立保育所の使命と地 域社会での役割」をテーマに 両会場で発表がなされました。 また、第四分科会の議長を、 秦野市やまゆり保育園の山本 昇園長が務め、大変素晴らしい 進行により会場の雰囲気 を盛り上げ所期の目的を達成い たしました。

なお、一日目終了後に翌日 の分科会で力を十二分に発揮 していただけるようにと、分 科会発表者と議長への激励会 が行われ、とても和やかな中 にも神奈川の力強い絆を強く 感じました。



### 第六分科会

「多様な機関との連携と協 働」というテーマに沿って四 つの研究発表がなされました。 最初に、私たち神奈川県 代表である大和市立保育園か ら「気になる子どもの保育の 充実」についての発表があり ました。大和市は、保育園が 地域育児センターとして位置 付けられ、地域における子育て 支援の拠点となっていると ともに、「地域子育て連絡会」 を発足し、多様な機関との連 携を深めている。このような いくつかの核となるシステム や大和市の特別支援保育の考 え方についての発表に「とて も参考になった。」との声が会 場から多数聞かれました。助 言者からも、今後も保育園と いう機能を十分に発揮しながら 発展して欲しいとの 言葉がありました。

二番目に、千葉県旭市サン ライズベビーホームから「発 達障害のある子どもの保育と 周囲の理解について」と題し

て、事例を通じて専門機関と の連携についての発表があり ました。話の合間に映し出さ れる保育の様子に、ほのぼの とした気持ちになれる内容の 発表で、障害がわかりづら い子（気になる子）に対し、発 達障害を疑ってみる事は悪い ことではないとの助言者の言 葉が印象的でした。

三番目に、「気にかかると子の 発達と支援の仕方について」 長野県飯山市あきは保育園か らの発表がありました。人口 が少なく狭いエリアという利 点をいかした、きめ細かい丁寧な行政やシステムの良さが 感じられました。

最後に、東京都葛飾区から 「地域の子育て力」を高める ための親の学びのプログラム についての発表がありました。 親の孤立を防ぐため、行政と してのシステムと連携の内容 の発表で、他課との連携を図 り、区の人材を活用している ことは画期的なことであると 思いました。

発表終了後、参加者から活 発な質疑がなされました。ま

た、助言者の横浜市総合リハ ビリテーションセンターの小 川淳課長より、発達障害の子 どもたちの理解や親への対応、 専門機関との適切な連携につ いての助言をいただき、分科 会を終了しました。

### 第八分科会

「公立保育所の使命と地域 社会での役割」というテーマ に沿って四つの研究発表がな されました。

最初に、埼玉県本庄市久美 塚保育所から「今後の公立保 育所の役割と実践を考える」と 題して発表がありました。

公立保育所の重点事業として、 一時保育・障害児保育・配慮 が必要な子どもへの支援・地 域交流・保護者へのサポート があげられており、中でも地 域資源を活用した交流事業に 努力しておられました。

二番目に、山梨県甲府市公 立保育所から、「公立保育所の 特性を活かした取り組みの実 践を考える」と題し、公立保 育所がそれぞれの保育所の特

性を活かし、子どもの目線に 立った保育への取り組みによ り、保育サービスの充実や地 域福祉などの保育事業に取り 組んでいるという報告がなさ れました。また、障害児保育 についても地域自立支援協 会を設立し、障害児を支援す るための体制づくりをされて おり勉強になりました。

三番目に私たち神奈川県 代表として秦野市立みどりこ ども園から、「秦野市立幼稚園 と保育園の一体化の現状と課 題」について発表がありまし た。公立保育園と幼稚園の一 体化の経緯や保育カリキュラ ムの統一、会議の持ち方など 具体的な取り組みについての 報告がなされました。成果と して、教育・保育の目標の具 体化により、四・五歳児もよ りよい豊かな体験と経験がで きることなどがあげられまし た。また、課題として、職員 の勤務体制が異なることによ り、一人ひとりの個性や望ま しい援助のあり方についての 共通理解をどのようにしてい くかがあげられ、幼保一体化

施設を運営するにあたり幼稚 園と保育園の専門性を活かし ながら、各年齢に応じた発達 を保障していくことが大切で あるとまとめられました。

最後に、横浜市からは「地 域子育て支援事業からの学び と歩み」と題し、都筑区の育 児支援についての事例報告が ありました。「安心して子育て できるまち」を方針に、園庭 開放を育児支援の拠点として 多くの利用者に親しまれ、保 護者の気持ちに寄り添うコー ディネーターの体制作りの報 告がありました。今後は、「安 心して子育てができるまち作 り」「地域全体の保育力向上の 役割」を果たすことが課題と 見出されていました。

発表終了後、助言者の白梅 学園大学の汐見稔幸学長より、 公立保育園の役割として、そ れぞれの地域で公立が保育力 向上のためにつながり合うこ との重要性や人材のネットワ ーク作りにより、保育の専門 性と信頼性の高い保育を提供 するなどの助言をいただき分 科会を終了しました。

## 新任保育士研修

平成二十年六月二十五日  
(水)に新任保育士研修が行なわれました。

会場となった県社会福祉会館には、一年目の保育士が大多数を占める中、二年目三年目の保育士を含め、八十名以上の参加となりました。

初めに都築会長より、「保育資格が義務化されたことにより、子ども一人ひとりの人権に配慮したり、保育士としての人間性・専門性が問われるようになりました。今日はアイ・ヒューマンネットを、立ち上げから関わり活動している加藤尚子氏から、たくさん良い話が聞けると思います。また午後には、亀谷美代子氏に、社会とのつながりの中で、これからの保育所の役割を中心に講演をお願いいたします。」と挨拶がありました。

葉のかけ方を中心とした、様々なお話をしていただきました。

内容としては、発達段階を知るため、人類が誕生するまでの流れを知り、発達の仕方にもその流れと似た特徴が見られるというもので、保育士はこの知識を身に付け、子どもの発達の状況を把握した保育をするのが大切であるということを学びました。そしてもう一つとして、脳の発育の仕組みと基本構成、各部分の脳の役割について、また、

脳のより良い発達のために必要なこととして、食事や咀嚼が脳に与える影響について学び、日常生活が子どもに与えることの大切さを知りました。

保育の中でより良い言葉かけについての内容では、言葉かけの内容を具体的にしたり、言い方を変えて様々な言葉かけをすることで、子どもの言語力がより発達する。例えば着脱のズボンを履く際には、ただ「履いて」と言うのではなく、「右から履こうね」と左右の順番を決めたり、その後の着る順序などを詳しく伝えることなどが良い言葉かけと

ることなどが良い言葉かけと教えていただきました。

午後の研修は亀谷美代子氏から、「これからの保育士に望むもの」と題して、乳幼児の現状や専門職である保育士の役割についてお話を聞きました。

まず初めに、子どもを取りまく環境を理解した上で保育する必要がある。現在、少子化と言われているが、乳幼児の居場所は様々である。その中でも、保育園は、幼稚園よりも園数が多いことや、三歳未満保育をしていることから、多くの子どもを預かっている。

このことから、保育園の役割としては、園に預けている子どもへの支援が求められている。それには、職場内での職員間の連携、他職種との関わりも図り、子育て支援に努めなければならない。

本研修を通して、子育ては一人で行うものではなく、助け合い、地域全体で子育てに携わることが大切だと改めて感じました。すべては、子どもの人権を尊重するために、

保育士として日々保育に努めていきたいと思っています。

最後に、亀谷氏の「今でも初心を忘れずに、日々子どもと触れ合いながら勉強している」という言葉が心に残りました。

研修を受けた新任の方より感想を聞かせていただきましたので、紹介いたします。

○保育士として四月から三ヶ月間、子ども達と園での生活を共にしてきましたが、その中で様々な遊びや、その時々に合わせて言葉かけを模索しながら過ごしてきました。これまで学んできたこと、これから学ぶことを自分の知識として身につけ、生かし、子ども一人一人を見つめ、その子どもに合った保育をしていきたいなと思いました。また、この研修を契機に積極的に学び、子どもからも保護者からも信頼される保育士として成長していきたいと思えます。そして感謝の気持ちを常に持ち、人間としても魅力ある人として生きる目標ができました。

○去る六月二十五日(水)県

社会福祉会館において新任保育士研修会に出席させて頂きました。午前の部は、「保育士になつたみなさんへ」という

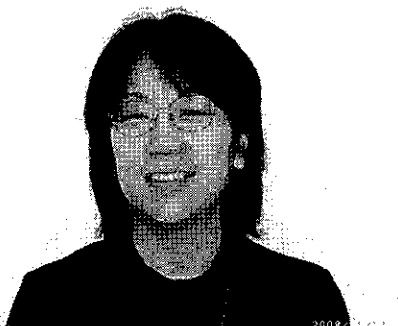
演題で、講師・加藤尚子先生の講演がありました。大人の日には子どもの十年に値する」という言葉が印象的です。

子どもの発達が急激であるからこそ、保育士は自覚と責任を持たなければいけないのです。午後の部は、「これからの保育士に望むもの」という演題で、講師・亀谷美代子先生の講演がありました。すべての子どもへの最善の利益を基盤にした保育の為に、様々な知識・技術を持った職員同士が連携を図り、レベルアップをすることが求められています。○今春四月より保育園に就職し、二歳児を担当しています。毎日忙しい中、子どもたちの成長を見守ることができ、とても充実しています。信頼される保育士になる為に、今回の研修はとても良い勉強の場となりました。この良き機会を与えて下さったことに感謝申し上げます。

### 保育専門講座Ⅰ

平成二十年九月十八日(木)  
県社会福祉会館において保育  
専門講座Ⅰが開催され、八十  
四名が参加しました。

午前の部では「保護者に対  
する支援」―新保育所保育指  
針の理解を通して―と題して、  
保育園を考える親の会代表、  
普光院亜紀氏の講演がありま  
した。氏は、保育所保育指針  
の改定に至る社会的背景に共  
通理解を求めた上で、保護者  
支援の基本的視点ならびに具  
体的支援内容について、新指  
針に準じた章立てをして、平  
易な言葉でお話されました。



指針改定の背景として、「子

どもを観て育っていない親の  
増加」「子どもが育つ環境の貧  
困化」「多様な育ち、多様な家  
庭」「地域の衰退、関係の希薄  
化」などによる社会全体の子  
育て機能の低下を指摘され、  
それを保育所を中心とした公  
的立場が補って子育ての社会  
化を推し進める必要性が生じ  
ていると述べられました。

第一章「保育所の役割の深  
化・拡大」の中では、保育所  
が家庭養育の補完的役割から  
さらにふみ込んで、子どもに  
必要な環境を保障する役割を  
担うべきとの考えを示されま  
した。

第二章「保護者と共有した  
い子どもの発達をとらえる視  
点」では、保護者の子ども理  
解を手助けする子育て支援の  
重要性に注目すべきと指摘さ  
れました。「保育所は教育を担  
う機関」と題された第三章で  
は、生活の中で養護と教育が  
一体となって展開され、保育  
所の教育のねらいが、幼稚園  
の教育要領のねらいとほぼ同  
一となったとの見解を示され

ました。

第四章では、保育課程に基  
づく指導計画作成にあたって  
子どもや家庭の状況を考慮し、  
保育計画の全様を保護者に情  
報提供することや小学校との  
相互理解をつながる連携の必  
要性にふれられました。「健  
康・安全、保護者との連携」  
を論じられた第五章では、入  
園時や懇談会はもちろん日々  
の家庭連絡の大切さ、食育に  
関する「つくる楽しみ」を家  
庭と共有したいものと述べら  
れました。

第六章で「保護者への支援」  
が論じられ、入所児の保護者  
に対する支援と地域の子育て  
支援の二分野での視点を示さ  
れました。子ども一人ひとり  
の発達を見通した、また人格  
を尊重した子ども観を伝える  
支援、保護者同士、また地域  
ぐるみの連携支援、ソーシャ  
ルワークの知識や技術の活用  
支援など。

最終七章では保育所ならび  
に職員の資質向上のためのア  
クションプログラムの策定実  
施にふれられました。

午後の部では「気になる子

どもの対応」―様々な事例を  
通して―と題して、ほあし子  
どものこころクリニック副院  
長の帆足睦子氏の講演があり  
ました。

子どもの個性なのか、広汎  
性発達障害なのか迷う子が急  
増している。大人に命令する  
子・保育園ではしゃべらない  
子・保育園ではトイレに行か  
ない子・抱っこおんぶの嫌い  
な赤ちゃん・我慢できない子・  
切れる子等々、様々な事例を  
取り上げ論点ごとに語られま  
した。①育ちきれていない子  
どもの心。……何から育ちき  
れていないのか見極めた上で  
の対応が必要。②子どもとの  
愛着の成立を考える。……養  
育者との愛着関係が対人関係  
の基盤となり社会性が、愛さ  
れる経験が他者への共感性を  
育む。③子どもとの気持ちの  
共有を考える。……気持ちが  
通じ合う安心感から信頼感へ、  
相手の気持ちに関心を持つこ  
とから共感、思いやりへ、仲  
間意識から人との連帯感へ。

④子どもの育ちを保障する保



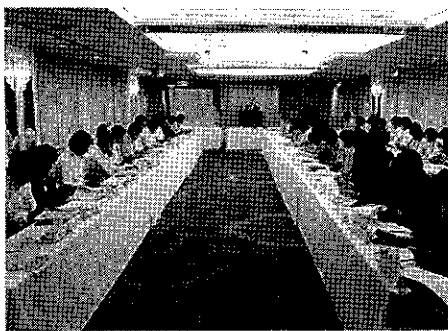
育への取り組み……運動発達  
の保障、社会性の発達保障、  
知的発達の保障。⑤「気にな  
る」行動の捉え方。……チャ  
レンジ行動ならばきちっと受  
け止め、行動の改善に導く。  
⑥保護者に対する配慮。⑦自  
己と向き合う。……可愛い子  
だから可愛がられるのではなく、  
可愛がられるから可愛い子に  
なる。

子ども達へのメッセージは  
言葉だけでなく全身を駆使し  
たものでなければ子どもは混  
乱する。なんでも乗り切るこ  
とが予測出来る有能感を育て  
る大切さを強調されておられ  
たのが印象的でした。

# 県・市町児童福祉主管課長と

## 委員との連絡協議会

顔中から汗が噴き出るほどの猛暑日の七月三十日に、県・市町児童福祉主管課長と神奈川県保育会委員との連絡協議会が開催されました。協議会には、神奈川県より芝山子ども家庭課長、杉本主幹。そして、十七の市や町から主管課長等が出席されての開催となりました。また、保育会からは、総勢三十六名の委員の出席がありました。



この連絡協議会は、平成三年から始まり、政令市を除く市と町の主管課長と保育会委員が同じテーブルに着き、諸課題等について共通の認識を

深めるとともに、県内各地域の状況などについての情報や意見の交換を行い、保育の充実と進展に資することを目的に毎年一回開催されています。今回の連絡協議会では、講師の方をお招きし、激変する昨今の児童福祉全般の動向などを主管課長と同じ空気の中で一体となり勉強をさせていただきました。

当日は、石塚総務部長の司会により進められ、宮田副会長の開会のことば、都築会長の主催者挨拶に続き、出席者の紹介がなされました。その後、お招きした全国社会福祉協議会の笹尾児童福祉部長から「保育・子ども家庭福祉の動向と課題」と題し、「①社会経済と家族の変化②保育所の現状と課題③構造改革、次世代育成支援策の構築④全国保育協議会の取組」との内容でお話しを頂きました。また、タイムリング良く、通称「五つの安心プラン」が前日に公表

されたこともあり、それを含めてのお話となりました。その後、芝山子ども家庭課長からのごあいさつをいただいた後、相馬副会長から県保育会の事業説明が行われました。休憩後には、情報交換等が熱心に行われ盛会裏に第一部が終了いたしました。



第二部は、伊勢原市の古屋保育課長のあいさつをいただき、その後、和やかな雰囲気の中で意見交換会が行われました。全般にわたって目的どおりの大変有意義な連絡協議会となり、最後に榊居副会長の閉会の言葉により、なごり惜しく第二部の幕が閉じられました。

## 関東ブロック

### 保育事業連絡協議会

さる九月十一日〜十二日に茨城県水戸市において関東ブロック保育事業連絡協議会が開催されました。協議会では、保育部会・保育士部会・主管課部会・リーダー育成部会の四つの職域別会議が行われました。保育部会として、保育会の法人化について各地区代表よりご教示をいただきました。保育士部会として、研修の持ち方及び会員資格について各地の現状を把握することが出来ました。リーダー育成部会では、昨年同様に人材の確保と人材の育成及び低年齢児の保育に絞って活発な意見交換が行われました。人材確保では、都市部において筆記試験及び実技試験の有る認可保育所を避けて試験のない会社運営の保育所に多くの学生達が就職希望をされていると情報提供がありました。低年齢児の保育については、横浜の保育士のアンケート結果を

もとに現場の職員が日々保育に携わる中でどの様なハードとソフトが必要なのかを報告されました。講演では、「カウソンセララーの立場から保育所を支援する」〜気になる子どもへの保育・モンスターパーレンツ対策・サブライズ保育士の指導〜をテーマに筑波大学大学院徳田克己教授のお話しをお聞きいたしました。残念ながら時間の関係で、サブライズ保育士の指導はお聞き出来ませんでした。話術に長けた先生でしたので、研修会等で講師をお探しの時は是非声を掛けてみては如何でしょうか。

## 編集後記

麻生新総理のもと新たな内閣が誕生いたしました。榊添厚生労働大臣は留任することになりましたが、麻生総理が手腕を発揮され保育業界に如何なる影響を及ぼされるのか見守って行きましょう。

広報部も四月より新メンバーになりましたので宜しくお願いたします。